

## 2.7 APEC リサイクルプロジェクトの概要

アジア太平洋経済協力 (APEC) 域内における持続的な経済成長を可能にするためには、行政官、企業経営者、およびその他関係者の人材育成・能力開発が不可欠であるとの認識に基づき、APEC プロジェクトとして「APEC 循環型経済に向けた人材開発 (Capacity Building for Recycling-Based Economy (RBE) in APEC) プロジェクト」が予算化された。

本プロジェクトは APEC の民間諮問機関 (ABAC) からの要請に基づき、日本が APEC 人材養成作業部会 (HRD-WG) に提案した結果、10 カ国の承認を得て予算化されたものである。プロジェクトの推進者は、HRD-WG の日本代表機関である (財) 貿易研修センターとなっている。2004 年 8~9 月にかけて専門家によるワークショップを開催し、本プロジェクトにおける重点課題の絞り込み、人材育成プログラムの設計、資料作成の役割分担について決定する予定である。

専門家ワークショップの結果を踏まえ、2004 年末~2005 年末にかけて人材育成パイロットセミナーやシンポジウムを開催し、これらの活動成果をとりまとめ、事業の継続的实施を通じて APEC 域内の関係者へ普及する予定である。

### <プロジェクトの背景>

アジア太平洋経済協力 (APEC) の一環として、APEC 域内の持続的な経済成長を可能にするため、資源の有効活用、廃棄物発生量の極小化を推進することが強く求められている。今後 APEC 地域における貿易投資の自由化が加速するのに伴い、国境を越えた生産・消費が増大することが予想され、これらを円滑に行うことができるシステムが構築されない場合、資源の浪費、環境の汚染、貿易・生産の縮小等、自由化の負の効果が拡大する懸念がある。

そこで、APEC 域内における資源の循環型社会経済システムの確立を目指して、資源リサイクルに関する実態把握、課題の抽出、解決策の模索を行うため、域内のキャパシティビルディングを図ることが喫緊の課題となっている。

このため、行政官、企業経営者、その他関係者による情報の共有、理解の促進、対応能力の向上を図ることを目的として、人材養成、能力開発に重点を置いた「**APEC 循環型経済に向けた人材開発 (Capacity Building for Recycling-Based Economy (RBE) in APEC) プロジェクト**」が実施される運びとなった。

本プロジェクトは APEC の民間諮問機関 (ABAC) からの強い要請に基づき、我が国が APEC 人材養成作業部会 (HRD-WG) を通じて提案し、ブルネイ、カナダ、韓国、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、台北、タイの支持を得て承認され、2004 年から 2005 年度にかけての APEC プロジェクトとして予算化されたものである。

なお、HRD-WG への我が国の代表参加機関である、(財) 貿易研修センターがオーバースーパー (プロジェクト推進者) となっている。

### <実施予定の事業>

現在、APEC 域内において、既に地域や産業によっては、省資源化や再利用化などの取り組みが進み、新製品開発段階で循環型経済を前提とした製品の設計製造も開始されている。しかしながら、ほとんどの APEC 地域ではこれらへの対応は緒についたばかりであり、資源の循環利用をさらに推

進するためには、企業努力、政策・規制、社会基盤の整備、関連産業・技術の開発、消費者及び経営者の意識改革等が伴わなければならない。従って、APEC 地域全体での循環型の社会システムの構築が不可欠である。

このような認識を踏まえ、以下の事業を実施する。

- ▶域内の省資源化、再使用化、再利用化などの現状の把握と課題の集約
- ▶リサイクルシステムのベスト・プラクティスの共有化
  - 域内における主要産業分野（ex. 電気・電子産業、自動車産業、事務機器産業）の事例を選択
- ▶循環型社会実現のための人材育成のニーズの明確化
- ▶ニーズに即した、人材開発プログラム、教材の共同開発、試行実施
- ▶域内の関連機関に対するプログラムの成果・教材の普及、共有
- ▶域内の循環型社会に関する専門家ネットワークの構築、プロジェクト終了後の継続的情報交換

### **<今後の活動計画>**

APEC プロジェクト実施の準備段階として、2003年10月～2004年3月に日本国内においてリサイクル関係専門家（学者、企業、団体）による準備委員会を開催し、APEC 地域におけるリサイクルの課題を集約した。

その成果に基づき、今後下記のプログラムで活動を実施する予定である。

#### **1) 専門家ワークショップの開催 【2004年8月末から9月初め】**

APEC 域内からリサイクルの専門家の参加を募り、以下の点について議論、決定する。

- ▶循環型社会構築に向けた各地域及び APEC 域内の課題と重点課題の絞り込み
- ▶課題解決のための人材育成プログラムの設計（扱う課題、産業、対象の決定）
- ▶パイロットプログラム実施の方法、教材など資料作成の役割分担の決定

#### **2) パイロットセミナーの開催 【2004年末から2005年半ば】**

人材育成パイロットセミナーを APEC 域内の 3 地域で開催する。セミナーの目的および対象は以下のとおり。

##### **目的**

- ▶域内のリサイクル社会構築に対する共通課題の認識を高めること
- ▶リサイクルの先進地域や先進業種の事例紹介等により、課題解決のための情報を共有すること
- ▶人的ネットワークを構築すること

##### **対象**

- ▶企業経営者、産業界代表、学会、行政官、その他リサイクル関係者

なお、形式としてはセミナー以外にも、産業界のリーダーや政策責任者を含むラウンド・テーブル・ディスカッションの開催も想定している。

セミナーやラウンド・テーブル・ディスカッション を通じて得られた新たな知見、成功事例、課題解決方法などをまとめて教材を作成し、APEC 域内における人材育成に活用する予定。

### 3) シンポジウムの開催 【2005 年後半】

3 回のパイロットセミナーを踏まえ、クロスボーダーの課題解決と政策、産業界の取り組み、市民社会を巻き込んだ解決方法などを議論・検討する拡大シンポジウムを開催する。  
必要に応じて、企業経営者、産業関連団体、行政等への提言をとりまとめる。

### <プロジェクト成果の普及方法>

プロジェクトの活動成果は、下記媒体により取りまとめ、事業の継続的实施を通じて、広く APEC 域内の関係者へ普及する予定である。

- ▶ 成果物のとりまとめ（報告書、事例集等の教材、資料）
- ▶ 成果物の普及（ネット、紙媒体）
- ▶ 人材育成事業の継続実施（研修）
- ▶ 関連、フォローアップセミナー等の開催
- ▶ 政策提言
- ▶ 人的ネットワークの形成

### <プロジェクト実施の流れ（案）>

